



おokay 美術考古館だより

Okaya Art and Archaeological Museum NEWS

2018.3
vol.7

《館長による体験的絵画教室》

第7回 土と炭で描く

土の風合いを活かすため当館の土器や土偶を描きました。

この写真は、当館所蔵の国重要文化財 顔面把手付深鉢形土器（海戸遺跡出土）を描いているところです。



平成29年度 特別企画展・収蔵作品展・考古企画展
イベント&ワークショップ
考古展示の紹介
館長コラム
共通入館券のご案内

共通入館券のご案内

岡谷の美術館・博物館めぐりには 共通入館券がおトクです!!

共通入館券は
右記の5施設で
お使いいただけます。

- 市立岡谷美術考古館
- イルフ童画館
- 旧渡辺家住宅
- 岡谷蚕糸博物館・シルクファクトおokay
- 旧林家住宅

共通入館券料金表

	2館	3館	5館
一般	650円	900円	1,100円
高校生	600円	700円	900円
中学生	300円	500円	600円
小学生	300円	350円	400円
有効期限	発行日から3日間	発行日から3日間	発行日から1年間

市立 岡谷美術考古館



- 休館日/毎週水曜日、祝日の翌日、12月29日～1月3日
- 開館時間/10:00～19:00
- 入館料/おとな(常設展)350円(特別企画展は別途料金)
子ども(常設展)150円(特別企画展は別途料金)
※ 諏訪郡内在住/在学の小・中学生
岡谷市内在住/在学の高校生は無料



蚕糸博物館・シルクファクトおokay



近代の岡谷の一大産業、製糸業の歴史がわかる博物館です。併設された榊宮坂製糸所では、職人が繭から糸をとる様子を見学することができます。

- 休館日/毎週水曜日(祝日の翌日)、12月29日～1月3日
- 開館時間/9:00～5:00(動態展示は16:00まで)
- 入館料/一般500円、中高生300円、小学生150円

江戸時代の武家屋敷 旧渡辺家住宅



高島藩士渡辺家は、城下町ではなく村に住んだ珍しい散居(さんきょ)武士の旧宅で、18世紀に建てられました。この家からは、明治以降3人の大臣が生まれました。

- 休館日/3月20日～11月3日の月・木・金曜日、11月4日～3月19日
- 開館時間/10:00～16:00
- 入館料/おとな310円、子ども150円

童画家 武井武雄の世界 イルフ童画館



大正から昭和にかけて、子どもの心にふれる絵を描き、「童画」という言葉を生み出した武井武雄の世界に浸れる美術館です。

- 休館日/毎週水曜日、祝日の翌日 12月29日～1月3日
- 開館時間/10:00～19:00
- 入館料/一般500円、中・高校生300円、小学生150円

一歩足を踏み入れば 旧林家住宅 明治にタイムスリップ



一山力(いちやまか)林製糸所の経営者、初代林国蔵の邸宅。明治30年代～40年にかけて建てられました。洋館付きで迷路のように広く、豪華でレトロな雰囲気味わえます。

- 休館日/毎週水曜日、祝日の翌日
- 開館時間/3月～11月 9:00～16:30
12月～2月 10:00～15:00
- 入館料/おとな570円、子ども260円

交流ひろばや市民ギャラリーで個展をしませんか? 興味のある方は、当館までお気軽にお問い合わせください。
当館ホームページ <http://www.okaya-museum.jp/> から「利用案内」をダウンロードいただけます!!

例えば、5日間 1日9時間使用し、ご来場された方に無料で作品を公開する場合は...

◆ 交流ひろば

- ・ 使用料金600円×3区画×5日間 = 9,000円
- ・ 空調設備費50円×9時間×5日間 = 2,250円
- 合計11,250円



◆ 市民ギャラリー

- ・ 使用料金5,000円×5日間 = 25,000円
- ・ 空調設備費150円×9時間×5日間 = 6,750円
- 合計31,750円



岡谷美術考古館だより vol.7

発行/平成30年3月30日

発行者/市立岡谷美術考古館

制作/株式会社中央企画

〒394-0027 長野県岡谷市中央町1-9-8 TEL.0266-22-5854/FAX 0266-22-5856
<http://www.okaya-museum.jp/> E-mail: art@city.okaya.lg.jp

〒394-0048 長野県岡谷市川岸上1-1-20 TEL.0266-21-7620/FAX 0266-21-5315



市立 岡谷美術考古館



●収蔵作品展Ⅰ
『水のある風景』
平成29年5月11日～7月9日



●収蔵作品展Ⅱ
『生誕120周年
高橋貞一郎と
子どもたち展』
平成29年11月17日
～平成30年1月8日
諏訪地域の美術の草分けと
なった高橋貞一郎の画業を
振り返り、その子女である
宮原麗子、高橋靖夫の作品
もご紹介しました。

平成29年度 考古企画展

岡谷市内から201箇所の遺跡が発見されています。
その遺跡から出土した考古関係資料は約25,000点。
その中の一部を企画展示しました！

古代（古墳～平安時代）の花上寺遺跡



花上寺遺跡から発見された土器や杯などの展示をおこない、
それぞれの時代の煮炊きする道具の遷り変わりを確認する
ことができました。

黒曜石 ～国内を結ぶ諏訪の黒曜石～



市内の遺跡から発見された黒曜石を大小数多く展示しました。
また、岡谷市以外の代表的な黒曜石も展示し、その違いも確認
することができました。



●収蔵作品展Ⅲ
『増沢荘一郎
とその同志』
平成30年1月14日～3月4日
郷土の版画作家 増沢
荘一郎と武井吉太郎、
小口作太郎の作品を、
『版画のまち』岡谷の歴
史とともにご紹介しま
した。



縄文の夜神楽 縄文遺産写真展
平成29年7月15日～9月10日

写真家 滋澤雅人氏に、当館所蔵の国指定重要文化財、顔面把
手付深鉢形土器（海戸遺跡出土、縄文中期）の撮影を依頼し、
各地の縄文遺産の写真と共に展示をしました。



ギャラリートーフの様子



展示風景



滋澤氏による撮影風景



全国美術展入賞作品展

平成29年9月16日～11月12日



岡谷市美術会及び岡谷
市在住者の中から、全
国規模の美術展（中央
展）で入賞したすば
らしい作品を展示し、岡
谷の新しい作家及び作
品をご紹介しました。



ギャラリートーフの様子



展示風景

美術考古館では、
毎月こどもから
大人まで楽しめる
ワークショップを
開催しています。

イベント & ワークショップ

平成29年度行われた一例をご紹介します。



館長が講師を務めた「体験的絵画教室」全7回
長年の創作活動で培った技術や工夫を
わかりやすく紹介し、毎回大人気。



「ローズウィンドウをつくって
光のアートを楽しもう」

スタンドグラスを紙で再現するローズウィンドウ。
みんなすてきな作品ができました。



「節分の壁掛けをつくろう」

鬼やおたふくの切り紙で、
かわいい壁掛けを作りました。



「バレンタインボックスをつくって
想いをとけよう」

箱を開けると中からハートが花びらの
ように広がるプレゼントボックス。
子供から大人まで楽しく作りました。

考古展示から

炭化米と壺（橋原遺跡：弥生時代後期）

美術考古館2階の考古展示室に、土器・石器・土偶などに混じり、炭になったお米（炭化米）が展示されています。この炭化米は、橋原遺跡59号住居跡の出土品で、住居が火災に遭って、壺の中に入っていたお米が焼け炭になり残ったと考えられています。驚くことに炭化したお米は、46.8リットルもの量があり、また同じ住居跡からヒエ・アワ・エゴマ・豆類も発見されました。

さらにこの住居跡からは、表面にひし形の焼け跡がついた壺も発見され、中にお米を入れた壺が、編みかごで吊り下げられていたと考えられます。当時の人の食生活？お米をどのくらい食べていたのか火災現場の検証から、文字がなかった時代のことが推測できます。

弥生時代には、水田による米作りが始まります。米作りによって食生活が安定すると、人口が増加し、米をたくさん作るためにはより多くの土地が必要となります。土地は大切ですから、土地を奪う者が現れ、土地を奪われないように防御するムラが形成され、戦争が始まりました。そしてムラが統合されクニが生まれます。そこにクニを束ねる大王の出現などなど・・・。目の前にある焼け焦げたお米から、今から2000年ほど前の弥生時代にタイムスリップしてみたいかがでしょうか。

館長コラム

- ◆5月、「ひと休みコーナー」でお茶のサービスが出来るようになりました。有料ですが、見たところ何の変哲も無いその小さい道具からは信じられないくらい芳醇な香りの飲み物が出て来るのです。
- ◆7月、市内小中学生のキラキラと輝く作品群が、当館の展示の後、イルプラザから駅までの童画館通りに出て行き、ウィンドウを彩りました。商店会の皆さんありがとうございました。
- ◆初秋、さまざまな原産地、遺跡から出土した黒曜石がウィンドウケース一面に整列しました。でかい塊から小さな切片まで、壮観です。採掘から加工・交易まで行われたこの地域ならではの文化財展示となりました。
- ◆9月から12月まで、思いつきのように始めた館長によるワークショップでしたが、参加の皆さんのおかげさまで、楽しく作品作りが出来ました。さまざまな素材と技法を試行する中で、土と炭で「縄文」を描くというめったに無い体験もしていただきました。3月にはささやかな展示発表が出来そうです。
- ◆次年度の企画展示の目玉は「次年度の企画展示の目玉は『生誕100周年 早出守雄展・早出先生と教え子たち』です。一人の天才の紹介に留まらず、受け継ぐ者たちの人脈と作品、高い山が持つ広い裾野を感じて下さい。もうひとつは、「長野県美術展70年を支えた作家」です。大先輩から現役で活躍する作家に至るまでの岡谷の系譜を見ていただきます。いずれも、作家や作品は単独に在るものでなく、人脈や系譜の「関係の糸」でつむぎ出されてくるのが感じられます。
- ◆平成30年度は、開館五周年を迎えます。企画や展示の充実を一層図りながら、市民の皆さんには気楽に立ち寄っていただく雰囲気心がけます。ご来館をお待ちしております。

